

# 千二地区自主防災協議会 設立



千二地区自主防災協議会が設立されました。本組織は市内34地区連合自治会で22番目に結成されました。住民の自助協働精神に基づく自主防災的な防災活動を行うことが目的です。

防災において大事なことである、

「自分の命は自分で守る」

を実現する自主防災組織。

また一つ吹田の街が防災について「強く」なりました。

当日会場では、結成式だけでなく吹田市西消防署による可搬式小型動力ポンプの取り扱い説明、吹田市土木部公園みどり室による公園内に整備されている防災設備（かまどベンチ、マンホールトイレ）の取り扱い説明、JEFOによる非常食試食・試飲、キンパイ商事（株）による防災グッズ（簡易トイレ等）の展示、危機管理室によるパネル展示や避難所設備説明など盛りだくさんでした。



ご家族で来られた方や、ご近所など老若男女さまざま方に会場に足を運んでいただきました。地震時に給水車から給水袋に水を入れて、自宅や避難場所までの搬送をアトラクション感覚で体験できる「グラグラ棒」はお子さんに大人気。避難所で実際に活用する段ボールベッドも実際に組み立てて、たくさんの人に乘っていただいて、段ボールながら非常に丈夫なことを確認していただきました。

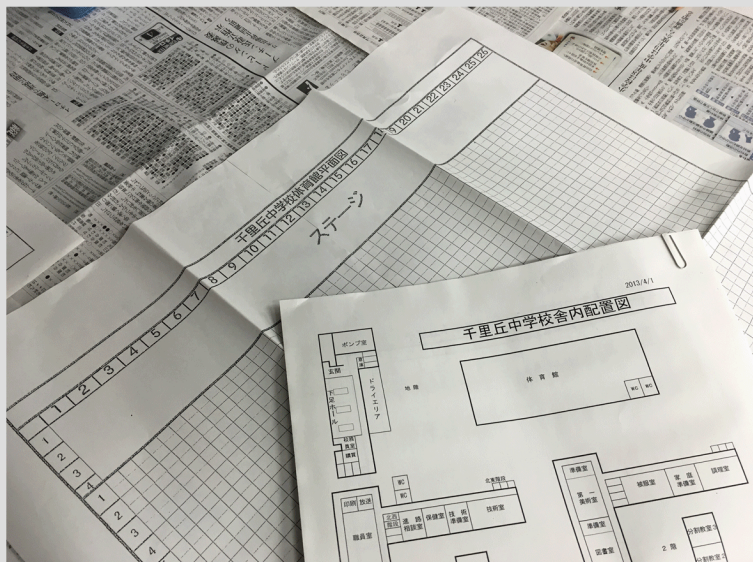


# 東山田地区HUGゲーム訓練実施



東山田地区自主防災対策委員会でHUG訓練（避難所運営ゲーム）が開催されました。今回のHUG訓練で使用した教材は、なんと東山田地区自主防災組織のオリジナル。訓練で想定した避難所も、実際に地域で避難所に指定されている千里丘中学校をモデルにしており、より現実味をもった形でHUG訓練を行うことができました。HUG訓練に限らず、防災訓練において実際に即した形で行うことは極めて重要です。

当日会場では、約50名が6グループに分かれて、実際に自分たちが避難所の運営を任された者として、次々に避難してくる多様な人々をどのように受け入れ、避難所でのルールやマナーを決めるかといった内容を、班のメンバーと積極的に意見交換しながら、よりよい避難所運営を各班で目指しました。とくに下水が止まった状態でトイレをどうするか、マスクへの対応など普段体験しにくい事案に対しては様々な意見を聞くことができました。



各班でのHUG訓練が終わると、ほかの班では様々な事案にどう対応していったか、班ごとに発表して自分の班からはでなかった意見をお互いに知ったり、危機管理職員による、過去の震災ではこのような問題が起こり、どのように対応したかといった具体例と自分たちの回答を比べながら、よりよいその地区にあった避難所の運営を考える良い機会になったのではないかと思います。